

事業評価シート（平成27年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	中学校理科教材等充実事業		
事業担当	学校教育部 教育総務課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	理科教育振興法		
対象・受益者	生徒・教員	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
	目的・目標		事業の概要
観察・実験を通して、生徒の問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方が養われています。		科学的な知識、技能及び態度を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、理科教材を充実します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位
	説明・算定式				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標				
	実績				
活動指標②	指標名				単位
	説明・算定式				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標				
	実績				
成果指標①	指標名	理科教育等重点設備整備率(平成26年度から)		単位	%
	説明・算定式	$\text{重点設備整備金額} \div \text{重点設備整備基準金額} \times 100$			
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標		35.5	35.6	
	実績		36.1	36.1	
成果指標②	指標名				単位
	説明・算定式				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標				
	実績				
進捗状況	①：予定どおり				
	遅れている理由				
平成27年度の主な取組と成果					
各校の重点設備の整備状況を考慮し予算を配当するとともに、重点的に整備が必要な学校に対しては、理科教育設備整備費等補助金を活用し、整備を進めました。					
平成27年度の検証結果	A：成果があがった				

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
事業分析	必要性 □ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他	理科教材の整備は市の施策として充実されるべきものと考えてます。理科教材購入費を追加配当することにより、学校の理科教材が整備されます。	● 高 ○ 低
	有効性 □ 上位施策への貢献 □ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他	文部科学省で設定している理科教育等設備基準に対し整備率が低いことから継続して教材教具の整備に努める必要があります。	● 高 ○ 低
	妥当性 ■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他	科学的な知識、技能及び態度の習得と工夫創造の能力を養い、理科好きな生徒が増えるように理科教材の整備を図ります。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性 ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 □ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) ■ その他	各学校で予算執行するため取りまとめに時間がかかるので検討が必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析			
整備率が全体的に低いため、各学校への再配当予算や理科教育設備整備費等補助金を活用して、整備を進める必要があります。			

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額
事業内容		理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実
財源内訳	国庫支出金	4,365	1,200	300
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	7,817	5,412	4,349
事業費 (A)		12,182	6,612	4,649
執行率 (%)		98.22	97.32	95.17

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成29年度の取組方針	学習環境の向上を図るため、計画的に理科教材を整備していきます。
課長コメント	教材・教具等の充実は、より良い教育活動を推進する上で不可欠なものであり、重点設備を中心に、今後も継続して整備を進めていきます。